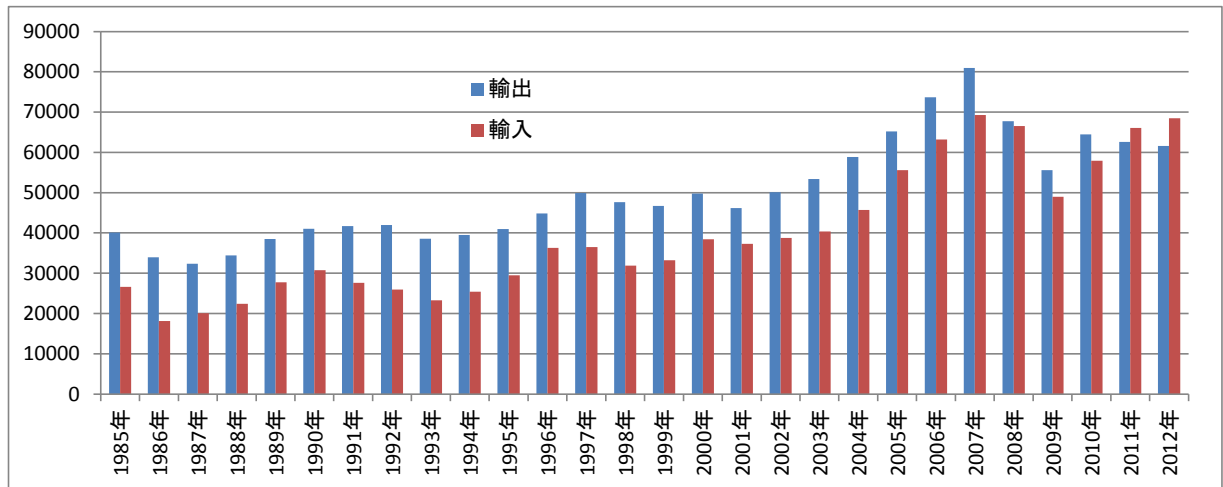


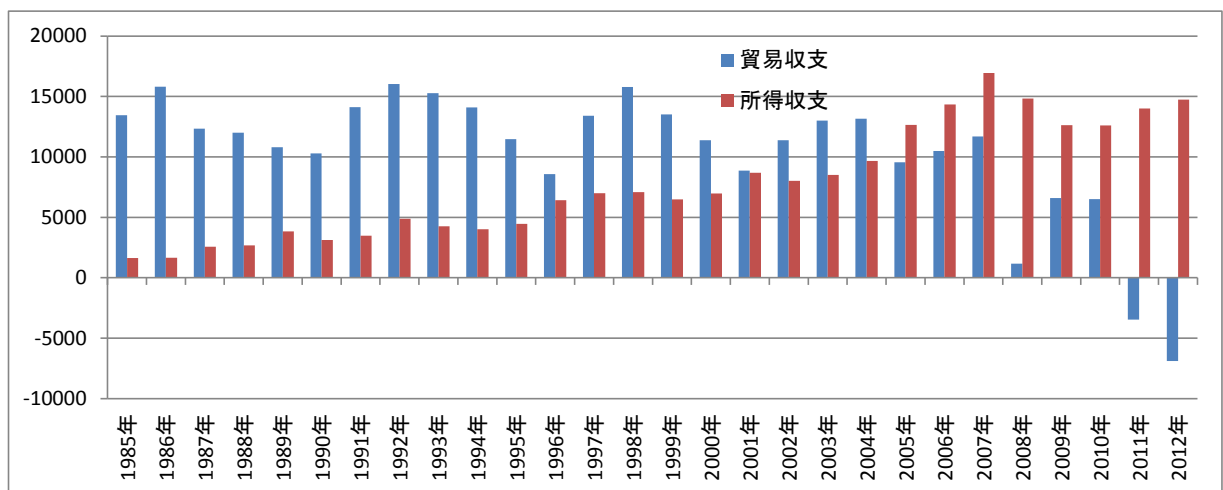
貿易赤字の原因は原発代替の燃料輸入増か？

我が国の貿易収支が 2011 年度 4.4 兆円の赤に転換し、12 年 8 兆、13 年は 13 兆円と赤字額が拡大している。東日本大震災による原発代替のための燃料購入増、今年に入ってからの円安為替から輸入金額が膨らんだことが主因と言われるが・・・。

図表 1. 輸出入額の推移（単位：10 億円）



図表 2. 貿易収支と所得収支の推移（単位:10 億円）



出典：図表 1、2 とともに財務省統計「国際収支状況」

1. 貿易収支の赤字の原因

マスコミは、貿易収支の赤字の主たる原因を原子力発電所の停止に伴う鉱物性燃料の輸入量の増加であるとしている。確かに2011年度は貿易収支4.4兆円赤字に対し、鉱物性燃料の輸入金額増が5兆円弱となっている。鉱物性燃料の中では、石炭火力は能力が小さく震災前からフル稼働、石油・重油はLNGよりコストが高い(発電効率が悪い)ことからLNGが増えている。LNGの輸入額は、数量の増加もあるが、急遽手当てすることになったスポット玉の高値、今年に入ってからの円安が大きく影響したようである。

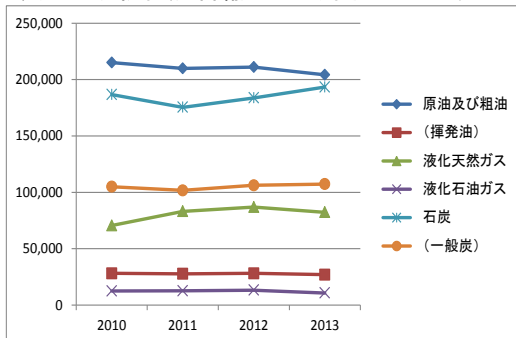
<参考> 図表3. 電源別の発電コスト(2004年試算/2010年モデル(単位:円/kWh))

原子力	石炭火力	LNG火力	石油火力	風力陸上	風力洋上	太陽光	地熱
8.9~	9.5	10.7	22.1	9.9~17.3	9.4~23.1	30.1~45.8	9.2~11.6

詳しくは、下記WEBサイトの報告書等を参照ください。

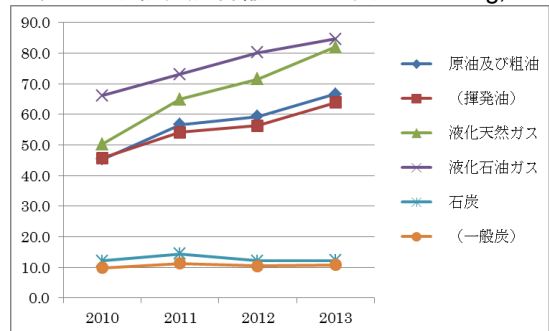
出典：<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/npu/policy09/archive02.html>

図表4. 鉱物性燃料輸入量(単位:千ト、千KL)



出典：財務省貿易統計より作成

図表5. 鉱物性燃料輸入量(単位:円/kg,l)



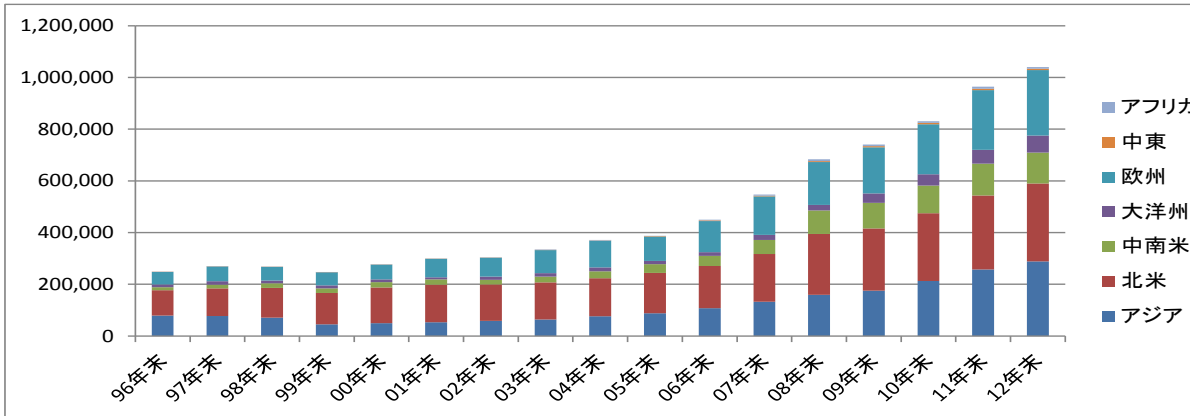
■今後の電力開発の方向

我が国の電力源として原子力は難しい状況にある。太陽光、風力は天気次第の面があり、産業用として供給の安定性、コストからかなり無理があるとみられる。その結果、図表3のコスト面、資源調達面から石炭、シェールガス、メタンハイドレード、地熱が注目される。

我が国が得意とする分野であるが、環境対策、発電技術も含め、様々な知見を織り込むことでさらなる競争優位強化・外貨獲得が期待される。特に世界的に見て埋蔵量豊富な石炭の効率的な発電システムに国を挙げて取り組むべきだと考えている。

2. 輸出金額減少の方が問題

図表 6. 日本の国・地域別対外直接投資残高（単位：100 万ドル）



<http://www.jetro.go.jp/world/japan/stats/fdi/>

短期の視点では LNG の輸入が増えて大変だということであるが、長期的には、震災以前の 2007 年をピークに減少に転じている輸出金額の方がはるかに深刻な問題と考えられる。

開発途上国はもとより、米国を始め先進国でも格差拡大等により、開発途上国の低品質、低価格品が売れ筋になり、高品質・高価格品は買いたくても買えない消費者が増えている。

我が国製造業はコストダウン、あるいは貿易摩擦を避けるために、生産能力の海外移転を進めてきた。さらに、電子・電機分野は海外への委託生産も増えている。海外での生産能力の向上が、国内の生産減を余儀なくしたといえる。

3. 輸出金額を増やすには

現状は貿易収支の赤字を所得収支でカバーすることができている。金融・サービス分野で欧米に勝てない我が国は、モノづくりを中心に原燃料を賄う外貨を稼がざるを得ない。

モノづくり産業の所得収支の主な源泉は直接投資の配当と知財収入である。知財と技術力があって初めて直接投資で利益が確保される。

知財（基礎）を生み出すのは優秀な頭脳であり、優秀な頭脳を持った人間の数は人口と教育環境に比例するとすれば米国や中国に劣るかもしれない。我が国がすぐれているのは「知恵をモノに転換する能力」である。知財創出努力もさることながら、誠実、勤勉、真面目な国民性を基盤とする技術力（応用、開発）強化に努めるべきと考える。

月並みな結論であるが、

「資源を持たない我が国が、経常黒字を維持するには、

技術立国、知財立国になることが求められている。」